

第 8 6 7 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 2 年 2 月 2 7 日（木） 9：30～

場 所 益田市立市民学習センター 202 会議室

益田市教育委員会

第 8 6 7 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 2 年 2 月 2 7 日（木） 9 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市立市民学習センター 2 0 2 号室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認

第 2 教育長報告

第 3 議題

議第 2 号 「益田市学校施設整備計画」の策定について

議第 3 号 「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」の策定について

議第 4 号 益田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部改正について

議第 5 号 益田市外国語指導助手に関する規則の一部改正について

議第 6 号 益田市立小中学校事務支援グループ設置要綱の一部改正について

報第 3 号 令和元年度島根県学力調査結果について

報第 4 号 令和 2 年度より導入予定の調査について

報第 5 号 ガーデンツーリズム登録制度の取り組みについて

第 4 その他

(1) 情報提供

・美濃公民館の竣工について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

柳 井 秀 雄
中 野 純
舟 橋 道 恵
村 上 三恵子
梅 津 富美子

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教 育 総 務 課 長
文 化 財 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
社 会 教 育 課 参 事
人権・同和教育推進室長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 係 長
社 会 教 育 課 係 長
教 育 総 務 課 主 任

野 村 美 夜 子
大 畑 伸 幸
山 本 裕 士
木 原 光
田 原 啓 文
森 脇 達 也
岡 崎 賢 一
石 田 公
山 本 浩 二
齋 藤 勝 義
田 淵 竜 司
中 島 光太郎
中 田 香 織

柳井教育長 それでは、定刻となりましたので、第867回益田市教育委員会定例会を始めさせていただきます。よろしくお願いします。

教育委員 まず初めに傍聴希望があるようですが、よろしいでしょうか。

柳井教育長 =全員了承=
それでは、新型コロナウイルスが世界的に広がっている中で、日本においても浸透しており、いつどこで起きるかわからないような状況にあります。そういった中で、教育委員会としてもしっかり対応していきたいと思っております。

 そういうことで、今日はマスクをつけて話をさせていただきます。

 それでは、早速議事に入りたいと思います。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 続きまして、教育長報告をさせていただきます。

 まず、1月30日にありました吉田南小学校でのCOOL CHOICEの成果発表会について、今月の広報に大きな写真が出ておりましたが、子どもたちはいかにCO₂を減らし、環境に優しいまちをつくるということを学んでおります。

 先般まで行っておりました吉田小学校につきましては、特に給食の残渣について減らしていこうという取組を行っておりました。吉田南小学校では、いかに二酸化炭素を減らすために工夫しているかということで、家庭の電気などがどのように使われているか、どれだけ減らせるかというところを調べておりました。子どもたちは一生懸命に取り組んでおり、この成果の取組をアンバサダーとして、安田小学校に自分たちが研究したことを伝えにいくということを行っております。

 また、同じ日には、グローバルリーダーの養成研究がありましたが、新型コロナウイルスの影響によって、海外に研修に行けないということがありまして、実施について危ぶまれているところです。

 12日から17日の間には、各学校の校長先生、教頭先生方の面接を行い、それぞれの学校がどのようにこの1年間取り組み、その成果がどれだけ上がったかということについて話を聞き、来年度に向けてどう取り組むかというところの話を聞かせていただきました。

 23日には、吉田公民館の地区合同発表会がありました。子どもたちは一生懸命に練習してきており、吉田南小学校の吹奏楽、神楽、そして吉田小学校の合唱などを聞いたり、見させていただきました。

もう一つ、24日に企業訪問ということで、教育関係に多大な寄附をしていただきましたテライという会社に御礼に行ってまいりました。

以上になりますが、この件についてはよろしいでしょうか。

舟橋委員

面接等が行われておりますが、二学期制、三学期制について、その状況といえますか、推進状況、あるいは感想等が学校からありましたでしょうか。

柳井教育長

二学期制につきましては、現在、10校が実施ということで申請が上がっております。

各校長先生方にお伝えしたことは、二学期制の良さというものをどこに置いて、それをどういうふうに分の学校に取り入れて、そして子どもたちをこのようにしていくという、その強い思いを持たない限り、なかなか理解が得られません。発信をしっかりとしていくことと、分の学校の特徴がどこにあるのかといったことを大事にしていっていただきたいということをお伝えしました。

舟橋委員

学校側で何か困られたことや教育委員会にこんなことをしてほしいというような話はありませんでしたか。

柳井教育長

これからどのようにやっていくかというあたりはしっかりと考えを持って進めていただきたいということをお伝えしておりますが、学校からはこういったことはどうだろうかということはありませんでした。

舟橋委員

わかりました。ありがとうございました。

柳井教育長

三学期制を選択したところは、例えば、今、校舎の建て替えがあり職員にもゆとりを持って考えることはできないので、これからの動向を注視しながらという学校もありました。大事なことは、二学期制の良さをどう生かしていくかということをおしっかりと持ていただきたいと思っております。

舟橋委員

二学期制、三学期制、それぞれの良さが分ありますから、またそれぞれの学校の良さを生かしていけばいいという教育委員会の方針でもありますが、これからも面談の時などにご意見を聞いていただければうれしいと思います。

梅津委員

COOL CHOICEの成果発表会の件ですが、とても素晴らしい取組だと思います。CO₂を減らして環境について学ぶということですが、何年前に環境省が家庭でできる10の温暖化対策というものをお出されたことがありまして、その中に待機電力を減らすとかアイドルグ防止、テレビを見ることを1時間短縮するなどの10項目がお出されました。大人の方がしていなかったりすることも多いと思いますが、子どもたちが取組むことによって、良い影響力をお与えると思います。子どもが学んで、そしてまた伝道師として次の安田小学校に伝えて、さらに安田小学校から次へ繋げていっていただければすごいことだと思います。

柳井教育長 この日は学校参観日でPTAや学校評議員会の方もおられまして、多くの方がその授業を見ておられました。子どもたちが家庭に帰ってから家族に伝えて、家族で頑張る、地域で頑張るというような、そういう広がりを持っていくことが大事だと思っております。

梅津委員 ありがとうございます。

柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

第3 議題

○議第2号 「益田市学校施設整備計画」の策定について

柳井教育長 それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

 議第2号「益田市学校施設整備計画」の策定について、事務局よりお願いします。

田淵係長 前回の定例教育委員会でも概要を説明いたしました益田市学校施設整備計画の策定に向けて議決をいただきたく、再度ご説明をさせていただきたいと思います。

 施設整備計画の策定につきましては、市の附属機関であります益田市立学校整備計画審議会から去る12月23日に答申をいただきました。未耐震施設の耐震化と学校施設の多面的利用に向けた拠点施設整備の考え方をもとに、今後施設整備の方向性やいまだ未耐震校の耐震化を含めた施設整備の年次計画をまとめ、子どもたちの安全を早期に確保すべく、財政面に配慮しながら今後計画的な施設整備を行うことを盛り込んだ計画となっております。

 また、財政面に配慮しながら今後計画的な施設整備を行うに当たりまして、令和2年度より当面5カ年の施設整備計画を立てております。

 未耐震施設を中心とした主な施設整備の年次計画として、校舎におけます改築工事を計画するほか、中西小学校、真砂小学校、戸田小学校の校舎におけます改築を計画しております。また、中西小学校、真砂中学校、真砂小学校の旧校舎における解体工事も計画しております。早期耐震化に向け取り組むよう5カ年で実施する形で計画をしているところでございます。

 1月の定例教育委員会での計画に対してご意見をいただきました。その意見等を踏まえながら、既に議会等へも意見を伺っております。

 本日の定例教育委員会にて計画の承認をいただき、学校施設の早期耐震化に向けて計画に沿って進めてまいりたいと思います。

柳井教育長 それでは、ただいま事務局より益田市学校施設整備計画についての説明がございましたが、これにつきまして先般委員の皆様方からご意見をいただき、それをもとに修正したところです。

この件について承認いただける方は挙手をお願いします。
＝全員挙手＝

教育委員

○議第3号 「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」の策定について

柳井教育長

それでは続いて、議第3号「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」の策定についてお願いします。

齋藤補佐

1月の教育委員会でも概要をご説明いたしました今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画の策定に向け、議決を求めたく、実施していただきましたパブリックコメントの実施結果を踏まえて再度ご説明をさせていただきます。

実施計画の策定につきましては、益田市立学校整備計画審議会からの答申内容に基づきまして、小中学校、それぞれのあり方の実現に向けた具体的な考え方を盛り込んで計画を策定し、学校再編を進めるだけではなく、学校、学校教育、地域づくり、人づくりが一体となる場所として学校を核とした地域づくりを進めていくために、地域の方々や児童生徒の保護者のご意見を伺いながら最善な状態へ進めていくこととしております。

計画の内容については、いただいた答申に示す小学校の具体的な考え方、中学校の具体的な考え方を基本として、10年先の本市のあるべき姿へ向けて取り組んでいく事項を具体的に盛り込み、令和2年度から9年間の計画期間として進めていくこととしております。

また、より良い計画の策定を進めるべく、多くのご意見を集約できる方策として1月30日から2月18日までを実施期間といたしまして、パブリックコメントを実施したところです。この詳細につきましては、附属資料をお配りしておりますので、こちらをご覧くださいと思います。

このパブリックコメントの実施により、4件のご意見が寄せられたところでございます。意見募集にあたりましては、実施計画案について内容が理解できるか質問させていただいておりまして、寄せられた回答全てが理解できるとの回答をいただくとともに、意見の内容につきましては、計画の内容を称賛いただく意見や今後の学校のあり方の実現に向けた意見をいただいたところでございます。また、計画の中にも示しております匹見小学校と匹見中学校の同一校舎における運営に向けた提案なども寄せられたところでございます。

これらに対する市の考え方といたしましては、今後計画を進めていく上での対策などの諸事項について、行政のみで進めるのではなく、保護者や地域の皆さんと一緒に方向を定めていくことが必要と考えておりまして、いただいたご意見を参考に協議し、地域、保護者と双方合意の中で進めていく旨を示しております。

なお、パブリックコメントの結果による計画案の修正はございません。

このパブリックコメントでいただいたご意見、また先日の定例議会、全員協議会等においても意見を伺っておりまして、それらを踏まえて本日計画の承認をいただきたいと考えております。子どもたちのより良い教育環境に向けて進めてまいりたいと思います。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件について承認いただけます方は挙手をお願いします。
＝全員挙手＝

○議第４号 益田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部改正について

柳井教育長

それでは続きまして、議第４号益田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部改正について、事務局よりお願いします。

齋藤補佐

続きまして、前回もご説明させていただきました令和３年３月３１日をもって閉校再編を迎えることとなりました真砂中学校に関しまして、既にご報告しておりますが、現在在校している中学１年生及び次年度入学予定の真砂小学校６年生の児童について、令和２年度から先んじて益田東中学校へ編入、入学することになったところでございます。

このことから、今後真砂中学校への編入、入学が発生しないため、校区を規定しております規則の改正を諮りたく、益田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部を改正する規則の制定をしようとするものでございます。

改正内容といたしましては、来年度の真砂中学校の閉校再編を見据え、令和２年度だけの時限的な措置であることから、真砂中学校の所管校区において令和２年度に中学１年生、中学２年生となる生徒について、益田東中学校の所管校区とすることを附則に規定しております。施行につきましては、令和２年４月１日からといたしております。

ご審議をよろしくお願いいたします。

柳井教育長

それでは、この件につきましてご承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員

＝全員挙手＝

○議第５号 益田市外国語指導助手に関する規則の一部改正について

柳井教育長

それでは続きまして、議第５号益田市外国語指導助手に関する規則の一部改正について、事務局よりお願いします。

田原課長

資料の１０ページをご覧ください。新旧対照表を載せておりますが、益田市においては現在４名の外国語指導助手ＡＬＴを雇用しておりまして、各学校へ派遣をしているところです。

来年度からこの委嘱をしているALTが会計年度任用職員に身分が変更となることから、このような形で規則を改正するものでございます。

内容といたしましては、まず第3条のところで「委嘱する」とありますところを、任用職員ですので「任用する」という形に改正を行います。

それから、第4条のところで、委嘱期間は1年以内という規定になっております。実は、ALTにつきましては、7月の下旬から8月に委嘱をし、それから1年間の雇用となっております。継続して雇用する場合は、さらに1年間という形で5年間委嘱することが可能でしたが、今後は、会計年度任用職員という扱いになりますので、一旦3月に任用を切るという形になるというところで、改正案のような文言にしております。

それから、服務につきましては、非常勤の嘱託員だった者を地方公務員法第22条の2第1項第1号に規定する会計年度任用職員とするような形で任用しようとしているものでございます。

この規則につきましては、令和2年4月1日からの施行したいと考えておりますので、ご審議のほどよろしく申し上げます。

柳井教育長 それでは、この件につきまして、ご承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員 ＝全員挙手＝

○議第6号 益田市立小中学校事務支援グループ設置要綱の一部改正について

柳井教育長 それでは続きまして、議第6号益田市立小中学校事務支援グループ設置要綱の一部改正について、事務局よりお願いします。

田原課長 引き続きまして、益田市立小中学校事務支援グループ設置要綱の一部改正についてご提案させていただきます。

資料の12ページをご覧ください。別表のような4つのグループに改正したいと考えております。

新旧対照表を載せておりますが、これまでも4つのグループがありましたが、それをより集まりやすい、簡単にいうと中学校区を基本としたより近いところでの事務グループという形で設置をしていきたいと考えております。事務の方たちが自分たちの学校だけでなく、近くの学校の事務をサポートするところをより促進していきたいということでこのように改めております。

平成23年度からこの事務グループの組織をつくっておりまして、過去2回の組織変更をしております。その中で、再編が少しずつ行われている状況で、事務グループの学校数や規模にいびつなものが見てとれるようになってきました。今回でいいますと、特に東部グループが3校のみとなっており、中部グループが10校もあり、さらに、ここには市内の大規模校

が3校含まれておりました。こういったところをうまく分散するとともに、参集しやすいような形としていきたいと考えているところです。施行につきましては、令和2年4月1日から施行するような形で進めていきたいと考えております。

村上委員

ご説明ありがとうございました。

中学校区を意識して、そして、近い学校単位の中で再編ができたということは大変良いことであると思っております。日常的にこうした事務の方々のグループ化による作業の中で、定期的な集まりでありますとか、効果といいますか、こういったものがあるかということをお教えいただきたいと思えます。

田原課長

各学校においては、同じような事務というものがございます。例えば、支払い関係の事務や就学援助の関係などの少し煩雑な事務があります。現在は、自校のものについては自校で全て対応し、確認し市へ提出する形になっておりますが、それを複数の目で見ること、よりチェック体制が高くなるというところが効果として1点上げられます。

それから、各校やり方が違うところも出てきていますが、それを集団で事務をすることでより効率良くしていく取組もグループ内でなされております。現在のところ、少ないところでは1カ月に1回程度しかできていないところもありますが、より集まりやすくすることで、回数も増やしていただければと考えているところです。

村上委員

ありがとうございました。

舟橋委員

事務については、効率化、そして孤独でなく複数でチェックというところがすごく大事な部分です。リーダー役の方もおられ、若い方の指導など、いろいろな意味でグループ分けは大事な役割をしていると思っております。再編などもあり、現場の気持ちを大事にして変更されているというところは、これからも続けていただきたいと思えます。

田原課長

ありがとうございます。

大畑推進監

中央教育審議会において、チーム学校が唱えられた中で、学校の欠点として、事務職員の職務がもっと明確に、校長に対し行政としての視点から補佐をすることであったり、チーム学校の中において、学校の事務はもとより、学校運営を含めたところでしっかり関わっていないといけないという位置付けになっています。そういうことでこの事務グループが今以上に研修の場となっていく必要があると思っています。また、県教育委員会とも連携しながら高めていくところだと思えます。

柳井教育長

今、大畑推進監から出ましたが、法律が改正になりまして、より事務職の職務が明確になり、学校の中でリーダーシップを発揮していただく、そういう立場がつけられたということで、よりやりがいを感じているということです。

舟橋委員 それも素晴らしく、大事なことだと思います。学校運営に関わってきておられることが大きな力になっていっているということですね。これがさらに推進されるということで、この事務支援グループはとても良い状況だと思います。

柳井教育長 ありがとうございます。

 それでは、この件についてご承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員 ＝全員挙手＝

○報第3号 令和元年度島根県学力調査結果について

柳井教育長 それでは続きまして、報第3号令和元年度島根県学力調査結果について、事務局よりお願いします。

森脇参事 令和元年度島根県学力調査結果について、その概要を冊子にまとめました。本日、この会で報告させていただき、その後3月11日に総務文教委員会で報告をした後に、ホームページで公開したいと考えております。

 それでは、この県の学力調査につきましては、令和元年12月10日に実施いたしました。対象は、小学校5年生、6年生、中学校1年生、2年生となっており、中学校につきましては、英語が加わっております。

 公表につきましては、益田市全体の結果を公表するという形で、益田市の子どもたちがどのような状況にあるのかということ进行分析、あるいは次年度の取組に生かしていきたいと考えております。

 資料の2ページ目から結果の概要としまして、ポイントでまとめたものを載せております。ポイントですとわかりにくいので、3ページ目にはヒストグラムのような形で載せております。

 小学校5年生の国語、小学校6年生の国語は、県とかなり接近しているという状況です。小学校6年生の算数ですが、資料にありますように、県よりも1問程度正答率が高かったという状況になっております。

 次に4ページ目にありますとおり、中学校1年生、中学校2年生の国語についても県とほぼ接しているという状況になっております。それから、特に中学校1年生の数学は県よりも1問程度正答率が落ちているという部分と、あわせまして、県と比較して十分学習が定着してない生徒の割合が高いということが見てとれます。中学校2年生の数学におきましても、正答数が2問というところが県よりも高い数値になっており、定着が十分図れていない子どもが多いということがわかります。

 中学校1年生の英語につきましても、かなり正答率が落ちているというところと、あわせまして、正答数が7問、8問、11問だった子どもたちの割合が県よりも高いということで、未定着の部分もしっかり学校で補充していただく必要があると考えております。

2 ページに戻ってご覧ください。益田市の正答率について、いわゆる領域と言われる部分の分析もしております。丸の部分が県よりも3ポイント以上上回るもの、三角が県よりも3ポイント以上下回るものを示しております。ここでも傾向があらわれておりまして、国語につきましては、4 学年中2 学年が書くことの部分で三角が付いておりますので、各小中学校において書くことの部分についてしっかり力をつけていけるような指導、また教育委員会からも働きかけが必要と考えております。

それから、算数、数学につきましても傾向があらわれておりまして、小学校5 年生と小学校6 年生は、数と計算、いわゆるドリル的な部分に丸が付いております。一方、中学校1 年生、2 年生については、その部分に三角が付いております。ということは、小学校5 年生、6 年生のドリルの部分はかなり定着していると考えられます。家庭学習の部分である程度基礎学力を付けるためには、ドリルの部分もかなり必要だと思います。逆に中学校では、家庭学習の習慣化がかなり課題になっておりますが、やはりドリルの部分をもう少し各学校でしっかり取り組んでいく必要があると考えております。

英語につきましては、中学校1 年生、2 年生のみになっておりますが、中学校1 年生の結果を見ますと、書くことの数値が非常に県よりも低いということが出ておりますので、書くことの方に重視をしていくことが、国語の部分と似たところもありますが、必要ではないかと分析しております。

7 ページには、同一集団の経年比較ということで、それぞれの子どもたちの平成2 8 年から3 年間について県と比較すると、ポイント差がどのようにあったかというものをまとめております。ただ、毎年、問題の難易度に差がありますので、一律に子どもたちが伸びている、伸びていないという資料には残念ながらなりません。参考値として載せております。

次に、8 ページからは、生活・学習に関する意識調査の結果について載せております。

肯定群の割合、そう思う、ややそう思うという割合がどれぐらいあるかということです。文章で少しまとめておりますが、自分にはよいところがあると思うという質問に対しては、県平均と同じようなデータになっておりますが、ただ、中学校2 年生がやや低いと感じております。しかしながら、前年度の集団と比べると、ややポイントはアップしておりますので、着実に児童生徒の自己肯定感を高める教育が定着しつつあるのではないかと考えております。

それから、人の役に立つ人間になりたいと思うという項目につきましては、県平均とほぼ一緒、中学校2 年生におきましては県よりも超えているというような状況です。特徴的なのは、学年が上がるにつれて、わずかではあります但しそういう意識が高まっているということです。ある意味こ

れは非常に頼もしいといえますか、非常に良いことだと考えております。だんだん学年が上がるにつれて、学校教育だけではなく、いろいろな場面で大人の方と触れ合う機会も増えますので、そういうことが充実している一つの要因ではなかろうかと考えております。

次に、9 ページには、平日の家庭学習時間 1 時間以上の割合をまとめたものを載せております。小学校 6 年生につきましてはほぼ県レベル、小学校 5 年生がやや少ない、中学校 1 年生、2 年生につきましては、県の水準に比べますと、随分差があるという結果が出ております。このあたり、先ほども申しましたが、特に算数、数学の部分でやはり小学校で培ってきた部分と中学校での家庭学習習慣の部分などがうまく連携できていないということも長年の課題であります。そのあたりもう少し踏み込んだ教育委員会からの指導といえますか、支援が必要ではないかと考えております。

あわせて、平日家庭学習の時間以外、どのような生活をしているかというところをデータでまとめてみました。私もまとめていて少しびっくりしたところがありますが、平日のテレビ、DVD の視聴が 3 時間以上と答えた子どもが小学校 5 年生で 37.8% います。それから、あわせてそこに幾つかデータを載せましたが、平日の携帯電話、スマホ使用時間 3 時間以上が中学校 2 年生において 22.3% いるということです。それから、平日のゲームを 3 時間以上、これが小学校 5 年生において 25.0%、つまり 4 人に 1 人は平日 3 時間以上ゲームをしているというような状況があります。一番上にあります平日の家庭学習時間 1 時間以上という数字は全てではありませんが、その部分を考えてときに、家庭生活の中のテレビ、スマホ、ゲーム、それらのある程度コントロールすることは学校だけではどうしようもありませんので、保護者等ともしっかり連携をとりながら、このようなデータも示しながら、もう一度家庭での生活について親子で考えていただくことが必要だと思っております。

平日の読書時間につきましても調べましたら、これは県の平均よりも超えているという現状もあります。ですので、二極化しているという話はよくありますが、家庭での生活をどう送っていくかという部分は、学校からの働きかけがもっと必要だとは思いますが、ご家庭の協力も仰いでいかないといけないと考えております。

10 ページにつきましては、家で誰かに言われなくても自分から勉強している、これは新しい設問ですので今年のデータとなっております。

それから、家で自分で計画を立てて勉強しているという項目ですが、先ほどの家庭学習時間の部分とも関係するものと思いますが、自立したり、それから継続して何かをやるという部分が県に比べると弱いと思います。この部分につきましても、家庭等とも連携をとりながら、あるいは学校としていろいろな目当てを考えさせたりしながら家庭生活を送ることによっ

て、子どもたちの家庭での生活が充実するのではないかなと思っています。

地域行事に参加しているというデータにつきましては、特に中学校につきましては、県も数字が落ちているところではありますが、地元の行事に参加している割合が県より高いというようなデータが出ております。

次に、学校が楽しいかという項目ですが、これにつきましては、県とほぼ同じようなデータが見られます。若干県に到達しておりませんので、いろいろな学校生活について子どもたちとの関わりをしっかりと強めていく必要があると思っています。

ただ、いわゆる中1ギャップという言葉がありまして、小学校6年生から中学校1年生に上がった時点で学校生活、環境が随分変わりますので、その部分で学校に対する不適応等が起こりがちではありますが、幸いにも中1ギャップというようなデータはここでは見てとれませんので、逆に言いますと、未然防止の取組がしっかりできているのではないかと考えております。

それから、12ページでは、外国語科、英語が好きという部分について載せておりますが、この部分につきましては、中学校1年生において英語が好きだという子どもたちが県よりも多いというような状況になっております。外国語科においては特に小中の連携をしっかりと深めていく必要があると考えております。

それから最後になりますが、授業では友達との間で話し合う活動をよく行っていると思うという質問については、ほぼ県と同様ということですが、中学校2年生においては県よりもわずかに超えております。益田市におきましては、対話を重視した授業づくりということをずっと進めておりますので、中学校2年生でそういう積み上げの成果として、県よりも少しではあります。上回っているということは、定着している証拠ではないかと考えておりますので、これが令和2年度におきましても続いていければいいと考えております。

今後の取組について上げておりますが、新しい学習指導要領になりますので、主体的、対話的、深い学びの実現に向けた授業づくりの支援ということ。そして、(1)の3つ目に入れておりますが、島根県教育委員会との連携をもう少し深めて、県の施策とも連動を図りながら授業づくりをしっかりしていきたいと思っています。

それから、(2)は学習習慣の醸成ということで、全国学力・学習状況調査において、島根県自体に学習習慣についてかなり課題があるということもありますので、県と連携しながら進めていけるとよいと考えております。

それから、余暇活動の充実支援、そしてメディアコントロール、情報モラル教育の情報発信、啓発という部分は、先ほども申しましたが、メディ

アコントロールの部分は十分ではないところがありますので、ここはしっかり力を入れていきたいと考えております。

(3) としまして、安心・安全な集団づくり、(4) としまして保・幼・こ・小・中、そして高校と連携した教育の推進について取り組んでいきたいと考えております。

以上、長くなりましたが、報告を終わります。

梅津委員

ありがとうございました。人の役に立つ人間になりたいと思うところのパーセントが思ったより多かったのが安心したのですが、いろいろな青少年の問題、いじめ、自死、ひきこもり、登校拒否などありますが、その人の役に立つ人間になりたい、そういう思いがあればこういったものも防げるのではないかという思いがいたします。気になりますのは、この95%の残りの方というのが、あまりそういうことに関心がないということですね。

また、学校教育だけでなく、さまざまな場面で手本となるロールモデルとの出会いが充実していた結果とも思われるという、そのところについて説明していただきたいと思います。

森脇参事

道徳教育や人権教育において、道徳では価値という言葉、人権教育では支え合うという言葉などいろいろなキーワードがありますが、その中で人の役に立つ人間になりたいという部分は、子どもたちにとって、学校教育の中で学ぶ部分、友達との生活の中で学ぶ部分であったり、先生とのかかわり合いの中であったりと学ぶ部分は結構あるのではないかと考えております。

それで、そこにあえて学校教育だけでなく、さまざまな場面で手本となるという表現をしましたが、やはり頭だけの知識では、場面場面での対応の仕方ということは学ぶと思いますが、例えば社会、地域でのいろいろな催し物などに参加することによって、こういう地域の大人の生き生きと働く姿や、子どもたちに関わっている姿などを見ながら、こういうふうな大人になりたいというようなモデリングがきちっとあるということが益田市の場合は大きいのではないかと考えております。頭だけの知識ではなく、やはり行動に移せる、あるいは行動に移していくという実際の場面がその地域の中にもあるということが、子どもたちが大きく伸びていくチャンスではなかろうかと思い、そのように表現させていただきました。

梅津委員

よく分かりました。大人の責任、重大というところです。

森脇参事

大人の皆さんには、大変頑張ってくださいますので、子どもたちに良い影響が出ているのではないかと思います。地域として子どもたちを育てる環境が益田市の場合は整っているのではないかと感じています。

柳井教育長

社会教育の立場からはいかがですか。

大畑推進監

今、高校3年生が小学校6年生に対してカタリ場を行っていたりします

ので、そういう意味では憧れの存在、それからその高校生が中学校での様子を話し不安を取り除いたり、いろいろと学校現場では工夫されておられます。

中学校では、地域で活動することが多くなっていますので、実際に主体的に地域の活動に関わることで、ありがたいと言われる回数は多くなっており、その積み重ねだろうと思います。知識だけで人は動かないということも結論出ていますので、やはり行動をしっかりと、そのときに地域で頑張っている方と一緒に、話をするだけでなく、一緒に活動するということまでをもっと取り組んでいく必要があるだろうと思います。

村上委員

2件ありますが、昨年の県学力調査では、小学6年生の算数が非常に良い成績であったというのがとても印象に残っておりまして、その小学校6年生が中学1年生に上がっていった時にどのように変わっていくのかと思っていたら、数学について三角が目立ってきていたり、全体として6年生のときの勢いがなくなっていると感じたところです。これについては、中学校に入ってから家庭学習の少なさであるとか、あるいはゲームやテレビの視聴、子どもたちの家庭を含めた余暇の過ごし方について、やはり対策をしていく必要があるのではないかと感じました。そういう中で、何か地域にいる大人たちが子どもたちに関われることはないでしょうか。

森脇参事

この結果につきましては結構ショックを受けておりますが、私なりの分析を一つしますと、やはり先ほどもお話をしました数と計算の領域について、いわゆるドリル的な分数の足し算、引き算、掛け算、割り算、小数あたりは、学校である程度やって力をつけている結果が丸印にあらわれております。中学校に入りまして、単純なドリルだけではなくて、応用的な部分が必要になってきますが、その部分の対応について、中学校では教科担任制になりますので、率直なところをいいますと、数学の先生方にこの現実をしっかり受けとめていただき対応していただく必要があると思います。教育委員会としましても、プリント配信システムという形で、ネットで問題を印刷して配付できるような仕組みを持っていますので、その活用などももう少し進めていく必要があると思っています。

ただ、言いわけになって申し訳ありませんが、実は中学校1年生と中学校2年生のテスト問題が活用部分を多く含んだ問題でして、正答率を見ていただきますと、中学校1年生の数学は全県の平均が49点になっており、中学校2年生の数学の平均は37.9点でした。私も問題を見ましたが、少し難しい問題もありまして、問題にうまく対応できていなかったという印象を持ちました。

一方、国語は、中学校2年生においては77点というテストでして、国語好きは増えて、数学好きはいなくなるのではないかなと思うようなテスト問題でした。テストによっては全てではない部分が若干ありますが、先ほ

ども申しましたように、明らかに中学校においては、数と式の部分に三角が付くというところで、そのあたりの対応を学校としっかり練っていく必要があると思っております。

それから、余暇の過ごし方につきましては、このようなデータを保護者にもお知らせして、家庭での生活時間を学校と一緒にしっかり取り組んでいくという啓発が必要になると思っております。

地域においてはということですが、学校に地域の方が手伝いに来ていただくような取組をすることも可能ではないかと思っておりますし、一律に地域の皆さんのご協力をどのようにしていくかということはなかなか難しいですので、各学校において地域の方がどのような協力ができるのか考えていけるよう働きかけをすべきだと思っております。

村上委員

個々ではなく、全体を見ていく中で、さまざまな現場でのご苦労もありながら、この試験の問題も含めてさまざまな課題があるということも分かりました。そうした中で、地域としては子どもたちが家の中でゲームをしたり、テレビを見たりではなく、できるだけ外に向けて、地域と関わっていったり、体験ができたり、そういう機会を持っていきながら、子どもたちの良いところをどんどん伸ばしていける取組が私たちもできればと感じております。

大畑推進監

1点だけ言いますと、子どもが地域に出ようと思うとき一番ネックになるのは親です。安心して子どもを地域に任せても大丈夫というところを、子育ての先輩である私たちから言っていくというところが必要だと思えます。親の評価として子どもを見られるという思いがあると思えます。そういったところは家庭教育というよりも安心して地域の中で育てることをもっとしやすい環境づくりが必要だと思っております。

柳井教育長

今、益田市におきましても、「学び舍ますだ」というものを毎週土曜日に行っており、いろいろな地域から手伝いに来ておられます。

一方、公民館で高校生が中学生に勉強を教えるといったような姿も見えておりますし、美都地域では中学生が小学校に行って、子どもたちの自主学習を見守るといった例もあります。そういったことが地域に広がり、地域でもやっていこうというような動きもあつたりしますので、地域の教育力を借りながら、子どもたちの学びを支えていくというシステムが広がっていくといいなという思いがありますので、よろしくお願いします。

村上委員

ありがとうございます。

舟橋委員

地域の場に行くと、「あの家庭は」ということが当たり前のように出てくるのが現状であると認識しています。そういうときに、今は違うという話をさせてもらいますが、なかなか今までの教育の考え方がしっかりと根づいていますので、それを中心に物事を判断されますと、そういったところが非常にネックなところになると思えます。少しずつでも私たちが地域

にいて、変えていければ一番良いとは思っています。

そういう中で、先ほどの梅津委員さんからもありましたように、人の役に立つ人間になりたいとか、自分にはよいところがあるという、そういう思い、自己肯定感が育ってきているということは、大きなことだと思います。本当に大事にして、しっかりと伸ばしていっていただきたいと思います。

一つ気になりますのは、数学もですが、やはり英語も気になります。英語活動が英語教育になっていくというところで、英語としての言葉の訓練というか出会いというところが、益田市では少ない環境にあるわけですが、小学校で学んでいる楽しさの英語と、教科となった中学校との英語では大きく変わってきます。そのあたりの手だてというのはどのようなになっているのかお聞きしたいと思います。英語教育については、どのようにしていくのかというところは課題だと思っていますし、予算的なところもあると思いますが、しっかりと受けて立っていかないといけないと思っています。

森脇参事

昨年11月に高校の英語の授業に参加させていただき、その授業をされた英語科の先生方とお話をさせていただきました。益田市では、全国学力状況調査において英語がかなり苦戦しているという状況もお伝えしながら、高校の先生方からは小中学校でこんなことをしておいてもらおうと高校でさらに伸ばせる、あるいはこういうところを補っていただくと高校で余り苦労しないというようなお話もいただきました。ただ、これは私自身がお話をいただいたレベルです。高校の先生がおっしゃったのは、小学校の外国語の授業というものを是非見せてほしいというお話をされていました。小学校、中学校の教育を踏まえながら、高校でもそういう授業を組み立てていきたいという意思があるということが分かりました。こういうことも踏まえまして、今後益田市としてどれだけできるかわかりませんが、先ほど舟橋委員さんがおっしゃいましたように、小学校の外国語教育が将来高校までどのように繋がっていくかというところをいろいろな立場の方が共通の目標のようなものを掲げながら実践していく。いろいろな悩みもぶつけながら、益田市の特に外国語教育について一本に繋がっていくということが必要ではないかと考えております。

どれだけの動きができるか分かりませんが、来年度は小学校、中学校、高校の先生方と協議をしたり、いろいろな目標を立てたりする場を持ちたいと思っておりまして、先般そういう話をさせていただきました。ただ、これがどれだけ結果として出てくるかどうかは難しいところではありますが、小中高で取り組んでいく一つのいいきっかけになると思っています。

舟橋委員

是非そういうこともやっていただきながら、高校の先生方にも一度小中学校に来ていただくという取組も進めていって、できるだけ環境を整えて

いかないと、このままでは益田市の子どもたちの英語力が落ちていく一方になるのではないかと気になっております。是非ともよろしく願いしたいと思います。

森脇参事

今回のセンター試験では民間の試験が取り入れられませんでした。理由としては、英語にはリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングという4技能があり、この4領域を満遍なく学校で取り組んでいない実態があるということで、多くの反対があったということです。要するに、今の高校英語の弱点は何かというと、4領域を満遍なくやっていないということが問題になろうかと思います。小学校では特に聞くこと、話すことをやっているのに、高校ではその4領域の力が満遍なくついておらず、高校最後でまた書くこと、読むことだけの力だけをつけるような英語をされている現状があるということです。

舟橋委員

今の書くことというところが、日本語も書くことがなかなかできない、時間がかかる、それは低学年からずっとあります。こういった状況が続いて、そういう状況が起こっていることもあると思います。できる子はさっと書きますが、その力の差は大きいと思います。そういう意味でも、今の高校で書くことなども本気でやらないといけないという状況は、書く力がついていない現状があるからですので、小中学校ではどのようなところに力を入れていけばいいのかということを考えていかないといけないと思います。少し欲を言えば、益田のどこかにモデル校をつくって、英語教育に力を入れてみるということも良いのではないかと思います。何らかの方法をもう少し工夫していくべきではないかと思っています。

森脇参事

舟橋委員さんのおっしゃられるとおりでして、益田市の中学校の現状としましては、各学校に英語の先生はお一人というような学校も結構ありまして、そうした場合、なかなか学ぶという部分がどこかに行って学ぶしかなく、同じ職場で相談し合う、学んでいくというような形の授業をつくっていくことはなかなか難しい現状にあります。

それで、昨年11月に県レベルの英語の研究会が益田市でありました。その時に高津中学校と益田東中学校で公開授業をされました。どちらも素晴らしい授業であったと評価がありましたが、ただ、それをどのように広げるかというところをしっかりと考えていかないのではないかと思います。やりっ放しでは非常にもったいない、子どもたちもすごく育っているのが目に見えたというところもありましたので、市教研の方とも少しお話をし、令和2年度はそれらの実践を各学校にどう広げていくのかというところを考えていきたいという話をいただきました。教育委員会も連携しながら、良い実践をどう広げていくかというところに力を入れていきたいと思っています。

舟橋委員

すごく良い方向に進んでいると感じました。一つ提案があるのは、事務

森脇参事
中野委員

グループの仕組みがありますが、そういう仕組みというのは英語でもできないでしょうか。1人で頑張るようなものではなく、集まって相談できるような、そういった組織のあり方も考えていくとより定着化するのではないかと思います。いろいろ検討していただければと思っております。

ありがとうございます。

大きく2点になりますが、5ページと11ページを見させていただいて、学校が楽しいと感じており、なおかつ国語、数学が好きだということは大きく比例しているように思います。学校現場ではやはり楽しい授業の組み立てをしないと、いくら子どもたちに説明してもなかなかポイント等が上がってこないものであらうと思います。このあたりを学校現場にもお話ししていただきながら、子どもたちが楽しく授業を受けられるような、そういった環境を是非つくってほしいと思いました。恐らくそういった気持ちになる子どもたちは自主的に勉強に取り組み、おのずとポイント数値に比例していくのだらうと思っておりますので、そのあたりについてお願いしたいと思います。

もう一つですが、特にメディアコントロールや情報モラル教育について、言い方が悪いかもしれませんが、随分状況が悪化してきたというところが気になります。13ページの今後の取組のところで、家庭、地域と連携した情報発信と啓発ということが書かれております。9ページを見ますとテレビ、DVDの視聴時間が大幅に増えていっているとか、平日のゲーム等の時間も恐らくこのままの状況でいきますと、次年度にはさらに上回るのではないかと懸念しております。対策について一緒に考えていかないといけないと思いますが、これは私が思うことですが、講演会等を計画してもなかなか保護者の皆さんに参加していただけない状況があります。授業参観ですと子どもたちと保護者が集まりやすい環境ですので、どれが正しいかはわかりませんが、保護者さんが必ず来ていただけるような環境の中で啓発をしていく必要があるのではないかと思っております。このあたりが気になっておりましたので、私のほうからお願いという形になりますが何かしら工夫をしていただけたらうれしいです。

森脇参事

正しい授業の組み立てによって、私たちが求めるものはこうしてデータとして出てしまいますので、ある意味定着率というのは非常に大切な要素ではありますが、学び続ける子どもたちをどれだけつくっていくかということが必要ではないかと思います。その一つのきっかけとしては楽しい授業、学ぼうという意欲を育てるということは非常に大切だと考えております。各学校にもお知らせをしながら授業改善を進めていただきたいと思いますと考えております。

それからもう一つありましたメディアコントロールの部分につきましては、子どもたちのスマホによるトラブルなど、そういうものは随分減って

きているのではないかと考えております。子どもたちのスマホ等の使い方については随分学習が進んでいるのではなかろうかと思えます。あわせて、先ほど中野委員さんがおっしゃられたようなゲームやLINEなど、そういう余暇活動と言っているかわかりませんが、どういう時間をどのように過ごすかという部分についてのコントロールはまだまだ啓発が必要だと思っております。

今のところになります、6月と10月にそういう教室を小学校、中学校の複数校で開催したいと考えております。早目に日程を詰めまして、その日をうまく参観日等に充てていただき、親子で学んでいただくという機会をなるべく設けるような仕組みにしたいと思っております。

柳井教育長

この問題につきましては、先般も市P連の総会があり、お願いをしております。高学年以上になるとだんだん自分で生活リズムを確立していく、そういった力が必要になります。低学年のうちは学校や家庭で行っていますが、そういった中でも、家庭におけるメディアとの付き合い方というのはなかなか学校では手の届かない部分があります。先ほど言われましたように、全ての方が学校に来ていただければ、そういった研修も効果が上がるわけですが、なかなか難しい部分もあります。先般、市P連の総会の中でも話しましたが、市のPTA、連合会が一体となってしっかり取り組んでいかないと、なかなかこの問題は解決しづらい部分があると思えます。今後も益田市の子どもの状況について伝え、より良い子どもたちの生活や学びに繋がるような家庭でのあり方を考えていく必要があると思えます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第4号 令和2年度より導入予定の調査について

柳井教育長

それでは続きまして、報第4号令和2年度より導入予定の調査について、事務局よりお願いします。

森脇参事

表題にもありますように、令和2年度より導入予定の調査ということで、位置づけとしましては、教育に関する大綱と第5次益田市総合振興計画の中で位置づけをしております。平均点というものさしから子ども一人一人の伸びというものさしへということで、益田市版の生活状況・定着度調査を令和2年度より行いたいと考えております。

これは、先般1月15日に小中校長会の研修会がありましたが、そこでお話をいただいた文部科学省の大根田さんという方が、埼玉県で組み立てられて、実際に2015年度から埼玉県で実施している調査です。それと同じ調査を益田市でも令和2年度から実施したいと考えておりまして、その予算についても現在、議会へ上程しているという状況です。

児童生徒については経年比較ができるようになります。今まで行っております全国調査、県の学力調査につきましては、一人一人の子どもたちのその時点での学習状況しか返ってきておりませんので、自分の伸びがどうだったのかということがわからないというような一般的なテストになっております。そういった弱点を補うためにも、自分の伸びが毎年わかるようなものが必要ではなかろうかということで、この益田市版の生活状況・定着度調査を実施したいと思います。また、あわせて生活状況等も調べますので、自分の自制心のぐあいはどうか、我慢強さ、積極性など自分自身の心の定着の部分が図ることができるというものです。

それから、今までは一律に平均点ということしかわかりませんでしたが、子ども一人一人が1年間でどれだけ伸びたかということがデータとして返ってきますので、先生方はどのような実践において伸びる子どもたちを育てることができたかというような振り返りもしっかりできるということ。それから、そういう先生方の取組を把握しながら、若手の先生方にその取組を実際に授業公開等で学ばしたりすることもできて、共有化や人材育成にも繋がると思います。

それから、地域にかかわる質問項目も設けることができますので、地域活動の充実度なども計ることができます。教育委員会としては益田市全体の伸び率がわかる。それから、クロス集計でどういう心の状況が定着度に影響するかということをデータで分析することができるということ。それから、学校、地域の良い取組の共有化ができるということ。益田市の児童生徒の強みと弱みがわかるということ。教育ビジョンの中の郷土愛と不屈、活力、発進力、自立、支え合い等を今まで測るものさしがありませんでしたので、その部分についての質問項目を設けながら、子どもたちの状況を知ることができるようになります。

実施日は、今年の4月22日の水曜日で、埼玉県と同一問題を使用するので、埼玉県と同じ日になります。返却日は7月下旬の予定ということです。

実施学年につきましては、基本は小学校4年生から中学校3年生までと考えておりますが、令和2年度に限り、令和3年度において比較ができない中学校3年生は行いません。令和2年度は小学校4年生から中学校2年生までの検査ということにしたいと思います。

それから、採点等は学校の負担になることはありません。

どうして一人一人の伸びがわかるかということですが、一人一人に個人番号をつけて、その個人番号で小学校4年生から中学校3年生まで追っかけていくというような形になっております。

定着度のものさしといいますか、問題が非常に工夫されておりまして、いわゆる英検などと同じように級が確定します。問題が工夫されて、難易

度のぶれがありません。定着度の表わし方は、レベルという表わし方で正答率何%という出し方ではなく、級のような形で、21段階でレベルが設定されています。

教員や学校にとってのメリットとしては、一人一人をしっかりと着目して把握することができる、授業づくりに繋がる、共有化もできる、地域活動の充実度などもわかります。

これまでどおり全国や県の調査も行うかということですが、これはそれぞれの全国調査、県の調査は、調査される側のいろいろな目標もありますし、それから地域全体の子どもたちの力、定着度の要素を知ることができ、いわゆる平均点を知るとは別に悪いことではありませんので、引き続き行いたいと思っております。

教育委員会が進める目的としては、今後益田市においては、小規模の学校が増えていくことが予想されます。全国や県の調査は平均点という横のものさしが中心となっています。もちろん、全国や県との比較は必要ですが、学校教育や地域との連携、教育委員会の施策を検証するためには、経年比較ができ、子ども一人一人の伸びという縦のものさしが効果的になるというところ目的としております。

実際、全県で実施しているのが埼玉県と福島県、それから市で行っているのが広島県福山市で、高知県のある小さな自治体も行っております。令和2年度につきましては、先般新聞にも載っておりますが、鳥取県の鳥取市と米子市が小学校のみ実施をされるという情報も入っております。以上です。

中野委員

質問ではありませんが、先だって小中校長会の総会でも聞かせていただきましたが、これを益田市で取り入れるということについて、私は賛同しておりますして、素晴らしい取組だと思っておりますので、是非進めていただきたいと思います。

柳井教育長

ありがとうございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第5号 ガーデンツーリズム登録制度の取組について

柳井教育長

それでは続きまして、報第5号ガーデンツーリズム登録制度について、事務局よりお願いします。

中島係長

雪舟サミット構成自治体と連携したガーデンツーリズム登録制度の取組ということで、雪舟サミットにつきましては、2年に1回サミットを開催しており、現在6自治体、岡山県、総社市、井原市、広島県三原市、山口県防府市、山口市と島根県益田市、この6自治体が加盟をしているもので

す。

この雪舟サミット構成自治体が連携してこのたび国土交通省が今年度新しく制度構築されましたガーデンツーリズム登録制度というものに対して手を挙げていこうということでこれまで取り組んできており、昨日、計画を取りまとめ、国土交通省に提出しました。事後になりましたが、その経緯や計画の内容についてご報告をさせていただきたいと思っております。

まず、このガーデンツーリズム登録制度というのは何かというところですが、日本には日本庭園や花の公園など、地域ならではの特徴を持つ多様な庭園が存在し、観光客に人気を博していますが、その魅力を十分に伝え切れていない隠れた庭園、花の名園も数多くあります。国土交通省は、地域の活性化と庭園文化の普及を図るため、各地域の複数の庭園の連携により、魅力的な体験や交流を創出する取組をガーデンツーリズムとしてその計画を登録し、支援するという制度となっております。

このことがプレスリリースされまして、益田市の雪舟の庭を愛でる会という民間団体がございますが、これはまさに益田市のためにあるような制度だから手を挙げていこうということで、昨年5月にお声がけをいただき、打ち合わせを持たせていただきました。また、11月9日に第17回の雪舟サミットが防府市で開催される予定でして、これは雪舟をテーマとした取組ですので、この雪舟サミットという連携軸の中でこの取組を進めていったらどうだろうかということで、7月、9月に構成自治体に赴きまして、意見交換をいたしました。

11月9日にサミット場で首長さん方がこの制度に取り組んでいくということで合意形成を得まして、それ以降計画策定に向けて取り組み、昨日計画提出に至ったところです。

今後の予定では、3月11日に第3回の審査会が国土交通省で開催されます。今年度、10程度の計画が登録されるということを聞いております。これまで5月と9月にそれぞれ6団体、2団体の計8団体が登録されておりますので、第3回の審査会では2団体程度が登録されるものと思っております。この審査会を経まして、登録につきましては4月18日を予定しているということでしたが、広島市で開催されます広島緑化フェアの期間中に登録証の交付式を実施するというのを聞いております。

計画につきましては、2ページ、3ページ、4ページのところで、取組の将来像を記載しておりますが、ちょうど今年が雪舟生誕600年という節目の年になります。益田市にとっては雪舟の郷記念館の開館30周年という節目の年になっております。

また、東京オリンピック・パラリンピックも開催されるということから、特にインバウンド、訪日の外国人観光客の増加を見越して、日本博というものも国が開催するというのも決定されているようでして、その中では

関連事業として雪舟の絵画作品などが展示される機会も多く計画されているということです。こうした機会を捉えて、雪舟サミットの6自治体で計画に記載のある取組をすることで、3ページにある将来像を目指して進めていきます。

一つには、連携による地域資源の魅力度の向上、次に官民協働による魅力的なまち・地域づくり、それから観光入り込み客数の増加による地域経済への貢献、こうしたことを計画に取り組むことで目指していききたいと思います。

本計画のストーリーというところで、この計画では雪舟が理想とする景觀を実際の大地に表現した雪舟作の庭園、それから雪舟が描いた絵画作品を鑑賞できる施設や空間、また雪舟が絵画作品を描く際や、庭園を作庭する際に参考としたとの伝承が残る景勝地や、生誕地や没地といった雪舟ゆかりの地、こういったものを見ながら回っていただけるということを記載しております。

構成庭園として9つの庭園を記載しており、益田市では萬福寺庭園を記載しております。

それから、計画を構成するために、庭園ではありませんが、関連する施設として7施設、益田市では雪舟の郷記念館を記載しております。

また、これに関連する事業ということで、19の事業、広域連携のもと、6自治体が連携する事業もありますし、それらの自治体が単独で実施する事業もありますが、19の事業を掲載しております。

計画に記載している19の事業について、令和2年度でいきますと、第18回の雪舟サミットが予定されています。雪舟サミットは2年に1回の開催で、令和2年度は開催しない年ということになりますが、今年は雪舟生誕600年の年ということで、総社市が前倒しで雪舟サミットを開催します。また、山口市と益田市の間では、交流人口拡大のために普及、促進を図る事業を2つ、庭園間周遊促進事業とJAFのデジタルスタンプラリーを開催したいと思っております。また、益田市単独事業としましては、雪舟の郷開館30周年、また雪舟生誕600年ということで、記念特別展を11月に益田市立雪舟の郷記念館で開催したいと思っております。それから、令和3年度の取組でいきますと、第19回の雪舟サミットが山口県山口市で開催される予定となっております。

こうした取組を通して、新たな価値づけをすることで、非常に身近なところにも素晴らしいものがあるということを市民の皆様にも理解してもらう機会になればと思っております。また、交流人口拡大、特にインバウンドというところも含めた交流人口拡大ということで、地域経済の貢献ということにも寄与していくものと思っております。以上です。

中野委員

ガーデンツーリズムの北海道ガーデン街道というものが出ておりまして、

見るとウェブサイトなのか分からなかったのですが、そういった形での啓発をされているように思います。この雪舟回廊につきまして、今後の展開としては、ウェブサイトの的なもので広報活動をするなどこういったことを想定されているのか教えてください。

中島係長

雪舟サミットのホームページというのが現在あります。ただ、そのホームページは雪舟サミットを開催した結果を情報発信するというものにとどまっておりますので、仮に登録されれば、そのサイトを活用して、このサミットとしてこういう取組をする、国土交通省のガーデンツーリズムに取り組んでいくということをバナーなど付けて、そこからしっかり情報発信できるような体制をつくりたいと思っております。

大畑推進監

メインは国土交通省が広く興味のある方、インバウンドに対する情報発信をしていただけるというところになります。

中野委員

ありがとうございます。

舟橋委員

雪舟に関わることをしておりますので気になっておりますが、こういう情報がなかなか入ってこないところを感じています。今見させていただいて、愛でる会からの話だったということも分かりましたが、益田市の雪舟記念館というのは大事な役割をしていて、中心になっているのですが、その他にも益田市にはたくさんの雪舟に関わるものがあります。この中には庭園のことが中心になっているので、出ていないところもあると感じております。こういう機会を大事にしながら、もっと益田市の雪舟に関わる場所をもう少し広げられる方法はなかったものかと少し残念に思っています。

大畑推進監

行政だけが一元的に進めるのではなく、行政の中の観光、文化財、社会教育が連携し、その中にある協議会でも取組を行っていこうというスタンスでおりますので、その中で顕彰会の方であったり、さまざまな行事など一緒になって連携していきたいと考えております。

舟橋委員

分かりました。やはりなるべく広く伝わっていく方法というものを考えていかないと本当に定着したものにはならないという考えで進めておられるということで安心しました。

村上委員

私もこの地域の魅力を発信する上では、本当にとっても良い取組だと思っております。舟橋委員さんもおっしゃったように、さまざまな方々とまた連携をして、ちょうど7ページのところに周遊ルートというものが出ておりましたが、これは一つの案にすぎませんが、庭園を見ることにあわせて、例えば飛行機からおりてきて、萬福寺で中世の食をイメージした昼食をとっていただくとか、さまざまな益田市の魅力をそこに盛り込む形ができれば、私の個人的な意見ですが、さまざまな団体の方々とも協力してより良い益田の魅力を発信していただきたいと思います。

舟橋委員

この雪舟について報道、取材をされるのは山口までです。益田までは報

道や取材に来ないという現状をしっかりと益田市民は意識していないといけません。雪舟に関わっている私たちと一般の方の意識では全然違うと思いますので、その辺りのところをもっと広く伝えていくことをしっかりとお願いしたいと思っております。

柳井教育長

ありがとうございました。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

4 その他

(1) 情報提供

○美濃公民館の竣工について

柳井教育長 それでは第4その他の協議に移ります。美濃公民館の竣工についてお願いします。

大畑推進監

まずお詫びを申し上げます。

この度、美濃公民館が新しくなりますが、これが建て替わる経緯が美濃地区の学校再編に関わっております。地域振興というところで、小さな拠点というフレームで建て替えたらどうだろうかという内部協議の中で、この事業について人口拡大課が所管しておりました。その結果、皆さんにご報告が遅くなりまして、大変申し訳ございませんでした。

では、概要につきまして説明させていただきます。

岡崎参事

それでは、私の方から概要を説明いたします。

まず1つ目に、課長が言いましたように、現在、美濃公民館の建設が進んでおりまして、今年度末で完了する予定になっております。それを受けまして、竣工式が3月28日土曜日に予定されております。時間的には10時から10時40分ぐらいで、その後に地元の方でお祝いの会をされるということです。

経過につきましては、当初、学校再編の協議会から要望書を受けて内部で協議した結果、地域づくりの活動拠点を整備するということで、担当が人口拡大課になって進めていたところです。

平成30年度に旧美濃小学校を解体いたしました。それと同時に、用地購入、それから実施設計を行い、令和元年度に工事に着手をしたという経過がございます。

今後の予定につきましては、3月5日に電気設備、給排水の衛生設備、空調設備の工事が完了する予定になっております。3月7日には、屋外のトイレと倉庫が完了する予定になっており、3月10日には、建築の主体工事が全て完了する予定となっております。3月19日に外構工事が終了し、全ての工事が終わる予定となっております。その後、3月20日から

22日のうち1日を利用して地域の方々が自分たちも何かできることをやりたいという申し出がありまして、引っ越しの準備を進めていただくことになりました。3月23日には最終的な引っ越しを済ませまして、竣工式を迎えたいと思っております。

この竣工式に関しましては、教育委員の皆様にもご案内をするということで進めさせていただいております。是非ご出席をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

柳井教育長
教育委員

この件について、よろしいでしょうか。

＝全員了承＝

柳井教育長

それでは、次回は3月26日の9時30分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 11時25分＝